



クリスティーヌ・ラガルド

国際通貨基金 (IMF) 専務理事

経歴

2011年7月5日

1956年パリ生まれ。ル・アーヴルの高校を卒業。米国・メリーランド州ベセスダのホルトン・アームズ・スクール在学経験も有す。パリ第10大学ロースクール卒業、エクス=アン=プロヴァンス政治学院で修士号を取得。

パリ弁護士資格を取得後、国際法律事務所である ベーカー&マッケンジーに、労働法、反トラスト法、M&A を専門とするアソシエイトとして入所。1995年に同事務所のエグゼクティブ・コミッティーのメンバー、1999年には同事務所のグローバル・エグゼクティブ・コミッティーのチェアマン、その後2004年にはグローバル・ストラテジック・コミッティーのチェアマンに就任。

2005年6月、対外貿易担当相としてフランス政府に入閣。農業・漁業相を短期務めた後、2007年6月に、G7 最初の女性経済・財政相に就任。2008年7月から12月まで、欧州連合 (EU) 加盟国の経済・財務相による経済・財務相理事会 (ECOFIN) の議長も務める。

G20 の金融危機対策に G20 の一員として取り組み、金融の監督および規制に関する国際レベルでの政策の発展、並びに世界経済ガバナンスの強化に努める。フランスが2011年のG20議長国となった際、G20議長として、国際通貨制度の改革をめぐる広範な作業計画を策定した。

2009年には、フォーブス誌の「世界最強の女性」の17位、ウォール・ストリート・ジャーナル・ヨーロッパの「欧州のベストエグゼクティブ・ウーマン」の5位、タイム誌の「世界で最も影響力のある100人」に選出された。また、フィナンシャル・タイムズ紙は「2009年・欧州財務大臣」に選出している。2000年7月、レジオンドヌール勲章シュヴァリエを受章。

シンクロナイズドスイミングの元フランス代表。二人の息子の母。